

ホッキョクグマは鳥にも魚にもなれない



おかあさん、ぼく、おなかがすいたよ……

北極は氷でできています。
その北極で暮らすホッキョクグマは、この氷の大地が融けてしまうと、そこに生息している獲物も死んでしまうので、食べていくことができません。



おかあさん、ぼく、もうおよげないよ……

北極で暮らすホッキョクグマは、氷の大地が融けてしまうと、泳いで移動する途中休める場所が無くなり、泳ぎ続けなければなりません。



おかあさん……、ぼく、もうつかれた……

ホッキョクグマは、いなくなってしまった獲物を探して、お腹をすかせたまま、いつまでもどこまでも泳ぎ続けて……やがて疲れ果て、おぼれて死んでしまいます。
氷の大地が無くなってしまった北極でホッキョクグマが生きていくには、鳥になって空を飛ぶか、魚になって海を泳ぐしかありません。

でも、ホッキョクグマは鳥にも魚にもなれない……



この10年のあいだに、北極の氷山の9%が融けてしまいました。
これから50年のあいだに、ホッキョクグマは現在の66%に減ってしまうかもしれません。ホッキョクグマは「保護対策依存種」から、絶滅する恐れのある「危機種」になってしまいました（IUCNレッドリスト2006年版）。

地球の温暖化・砂漠化が、驚くべき速さで進んでいます。

私たち人間の、自分たちのことしか考えない毎日の生活によって排出される二酸化炭素がその主な原因です。経済を大切にすあまり、自然を思いやる心を失くしてしまった私たちの生活が、北極の大地を融かし、ホッキョクグマを絶滅の危機に追い込んでしまったのです。

どうすれば、ホッキョクグマを救うことができるのでしょうか。

私たちが、必要なエネルギーを自然エネルギーに変えて、その自然エネルギーを大切に使うこと。そのための、政策やシステムをすること。これが、私たち人間とホッキョクグマが、たった一つの地球で、これから一緒に生きていくことができる、一つのあるいは唯一の方法です。

ホッキョクグマを危機に追い込んでしまった私たち人間。

でも、ホッキョクグマを救えるのもまた、私たち人間だけなのです。

ホッキョクグマを助けるためにも運動に必要な資金が足りません。

ホッキョクグマを助けたいというティンバア作家のジョアン・オサンの思いを伝えるエコ・プロジェクト **STPB** (Save The Polar Bears)。
私たちは、日本でこの活動を支援しています。